事例　併設園の特徴を生かした幼保小連携

― 岸和田市立八木小学校 ―

１．実践の概要

（１） 学校の様子

岸和田市内のほとんどの小学校は、以前から幼稚園が併設されている。八木小学校もすぐ隣に幼稚園と保育所があって、恵まれた立地条件を生かして幼保小連携が盛んに行われている。子どもたちの連携だけでなく教員同士の連携も大変盛んである。

（２）幼保小連携

① ２年生まつり（２年生と１年生・幼保の交流）

２年生が生活科で工夫して作った遊びのコーナー（金魚すくいや人形劇、紙落とし、スライム等）に幼稚園や保育所の子どもたちを招待するという形態である。入場券を首にかけた幼稚園の子どもたちが、人形劇が始まる多目的室に集合した。２年生のあるグループが、ペープサートで「たのしいクリスマス」を披露しているのを、園児たちは最後まで熱心に鑑賞した。その後、園児たちはグループごとに思い思いのコーナーに散らばって行った。

魚釣りコーナーでは、時間内に何匹の魚がつれるかをグループごとに競わせるという趣向があった。もぐらたたきは、穴を開けた大きな段ボール紙の下に２年生が入って、モグラの顔をかいた棒を突き出して園児たちにたたいてもらうというものだ。

輪投げでは、自分たちで考え、投げるラインを低学年用、園児用など年令に応じた設定にしていた。２年生も交替で他の友達が作ったコーナーを回ったが、年上として園児たちに優しく順番を譲っていた。

② その他の取組み

５月に恒例になった「八木っ子まつり」では、３年生が幼稚園の年長児を世話しながら、５・６年生が作ったコーナーを一緒に回ることになっている。

園児は３年生のまねをしながら工夫して遊びを発展することができ、３年生は園児の面倒を見ることで責任感や思いやりの心が育った。３年生担任も、クラスの児童が園児たちの面倒を見ることになって、「どのようにしたら児童が園児の世話を上手にできるか」を考えることによって、園児や小学生をより深く理解することができた。この他、教員が合同の反省会において、日頃自立が十分でない子どもが小さい子に親切にして活躍していたという話を聞いて、子どものいつもと違ったよい点を知ることができた。

■幼保小連携のスケジュール■

月	行　事	対象学年	内　　容　　資料
4 月	学校たんけん	1･2 年	○2年生が1年生と一緒に学校内をたんけんする。
5 月	八木っ子まつり	幼･保 全学年	○4･5･6 年生がクラス毎に準備する店に，幼稚園･保育所児を招待する。 ○年長児は 3 年生と一緒に回る。
6 月	いっしょに遊ぼう	幼･1 年	○集団生活に慣れてきた頃に，幼稚園庭で一緒に遊ぶ。
7 月	七夕まつり	幼･保 1 年	○1 年生が飾りの作り方を教えて，笹飾りをする。 ○短冊に願い事を書く。 ○笹飾りを囲んで，七夕集会をする。
8 月	実践交流会	職員	○幼稚園･保育所･小学校の職員が日々の実践や児童･園児の様子を交流する。
9 月	運動会	全学年	○一緒に参加する。 ○色別にわかれ応援する。
10	仲良く遊ぼう	幼･1 年	○体育の時間に校庭で一緒に遊ぶ。
11	遊びを教えてね	幼･4 年	○休み時間に園庭で，縄跳びやドッジボールを教えてもらい，一緒に遊ぶ。
月	校内作品展	全学年	○一緒に参加し，鑑賞する。
12	2 年生まつり	幼保･2 年	○2 年生が準備する店に，幼稚園･保育所児を招待する。
月	おいもパーティー	幼保･1 年	○1 年生が収穫するさつま芋をふかし，一緒に食べる。 ○一緒に歌ったり，ゲームをしたりする。
1 月	昔の遊び	幼･1 年	○羽根突きやこま回し･けん玉などの遊びを一緒にする。
	授業参観	幼保･1 年	○1 年生の授業を見学する。
	給食交流会	幼保･4 年	○4 年生と一緒に給食を食べる。
2 月	ゲームオリエンテーリング	幼保･3 年	○3 年生が準備した店に幼稚園･保育園児を招待する。

③ 教員の連携

毎年８月の夏季休業中に幼稚園・保育所・小学校の教員が実践交流会を実施している。そこでは、互いの教育の相互理解のために実践を交流したり、教育の連続性を図るために子どもへ配慮していることなども話し合われたりしている。また、1 年間の幼保小連携について振り返り、各交流行事について概略や子ども達の感想、反省点などを冊子にまとめている。

その中で「1 年生の様子から見て幼児教育に望むこと」と題して、最近の子どもたちの「手先の器用さ」や「聞く・話す」力の低下等についてふれ、家庭や幼稚園等において小さいうちにこれらの経験を増やすとともに、小学校とも連携していくことが大切であると訴えている。

このように八木小学校と幼稚園・保育所の教員や保育士は、子どもたちの交流を契機に、幼保小それぞれの教育の連続性について日常的に話し合いを深めている。

2. 連携のポイント

- 併設園という条件を生かして日常的に小まめに連絡を取り、様々な校種間交流を大変積極的に実施している。
- 子どもの交流だけでなく、先生方の実践交流も行われ、それが互いの教育の段差を緩やかなものにすることにつながり始めている。
- 保育所も含めた教員連携、異年齢交流を計画的に実施している。